

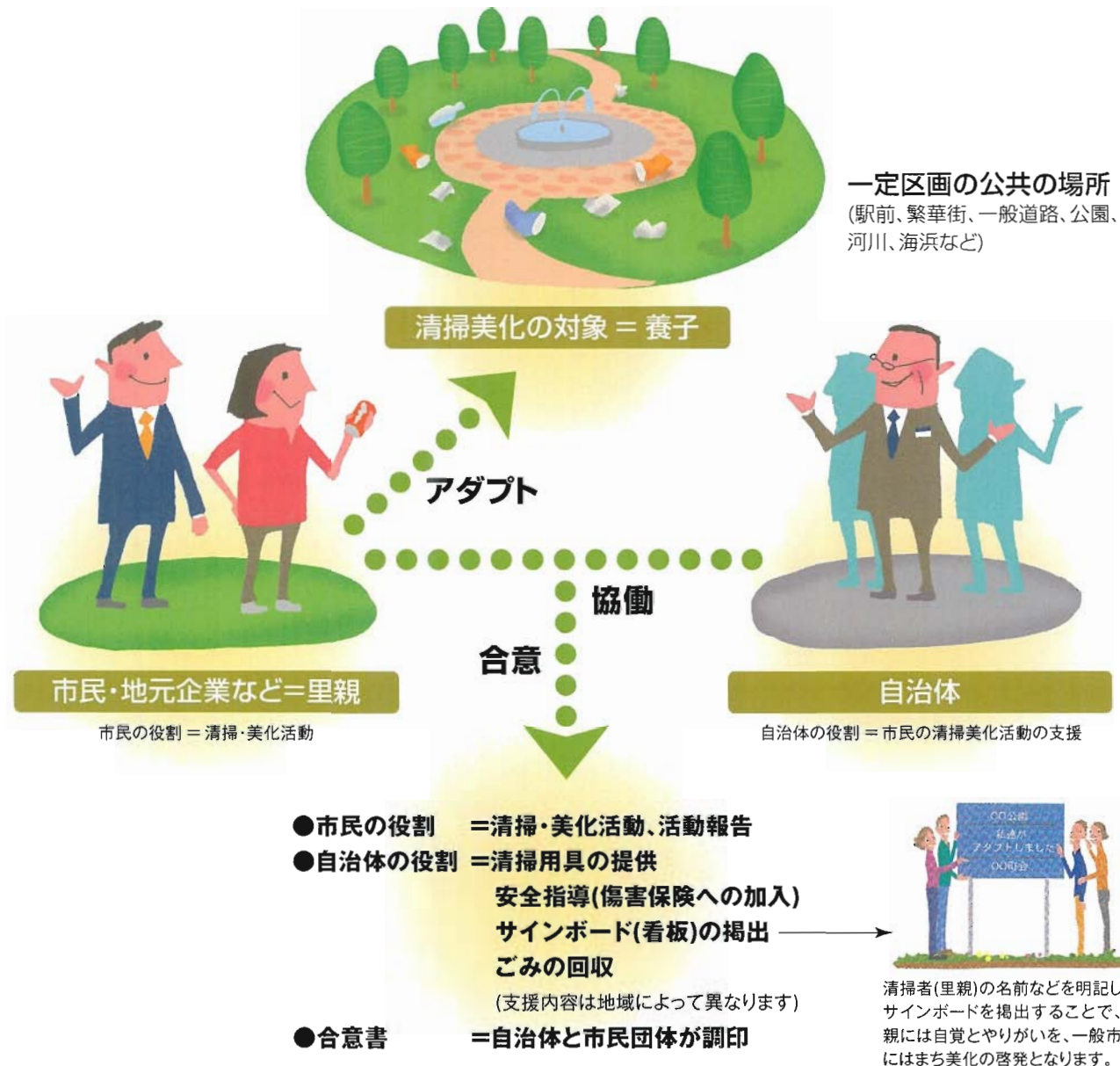
新しいまち美化手法

アダプト・プログラム

日本各地で、地域特性に応じた「アダプト・プログラム」が導入され、定着しています。
アメリカの「アダプト・ア・ハイウェイ・プログラム」にヒントを得て、これに各地の創意・工夫が加味された
「日本版アダプト・プログラム」が、全国にしっかりと根を下ろしています。

基本モデル

「アダプト・プログラム」は市民と行政が協働で進める、新しい「まち美化プログラム」です。
アダプト(ADOPT)とは英語で「〇〇を養子にする」の意味。一定区画の公共の場所を養子にみため、
市民が里親となって養子の美化(清掃)を行い、行政がこれを支援します。
市民と行政が互いの役割分担を定め、両者のパートナーシップのもとで美化を進めます。

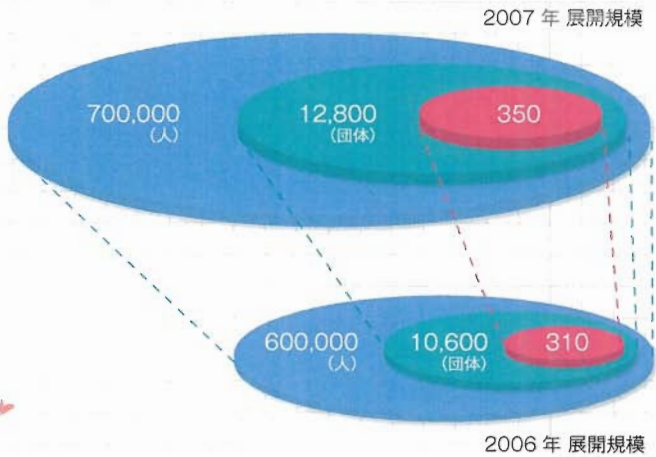




アダプト・プログラム普及実態と導入成果

1

アダプト・プログラムの規模



アダプト・プログラムは、2007年も引き続き拡大

1998年、日本で初めてアダプト・プログラムが導入されて以来、毎年着実に拡大。2007年には全国で推定350のアダプト・プログラムが稼働。人口2万人以上の市・町の約3割が導入しています。

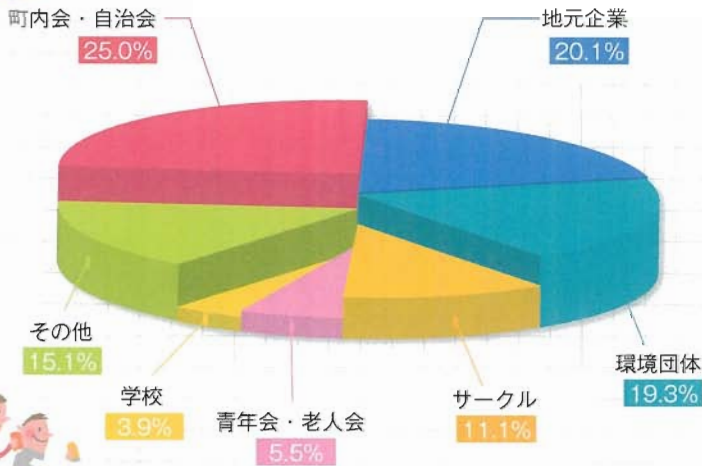
導入件数と同様、参加団体も増加しています。年間平均2,000団体増のペースで増え続け、過去6年間で10倍となりました。

2007年の登録人員は700,000人超と推定されます。70万人が所定の年間回数、活動しています。

2

アダプト・プログラム参加団体構成

自治体調査 2007



幅広い層が支えるアダプト・プログラム

アダプト・プログラムの特徴のひとつは参加団体の多様性。新しい可能性を秘めた同プログラムに幅広い団体が参加しています。

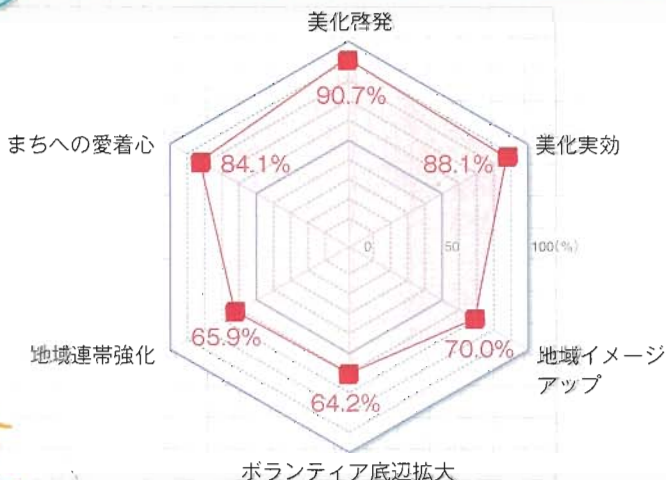
特徴その2は、地元密着の里親構成。町内会・自治会、地元企業あわせて約45%。その地域を大切にしている人、その場所のお世話になっている人が、アダプト・プログラムを支えています。

学校もアダプト・プログラムに参加しています。

3

アダプト・プログラムの導入成果

自治体調査 2007



まちの美化とまちづくりに貢献するアダプト・プログラム

アダプト・プログラムの直接的な目的は、まちの美化です。しかし、実際の導入効果は、美化効果にとどまらず、多様です。

導入された場所をきれいにする効果を約9割の自治体が認め、これとほぼ同様に美化の啓発効果が認められています。

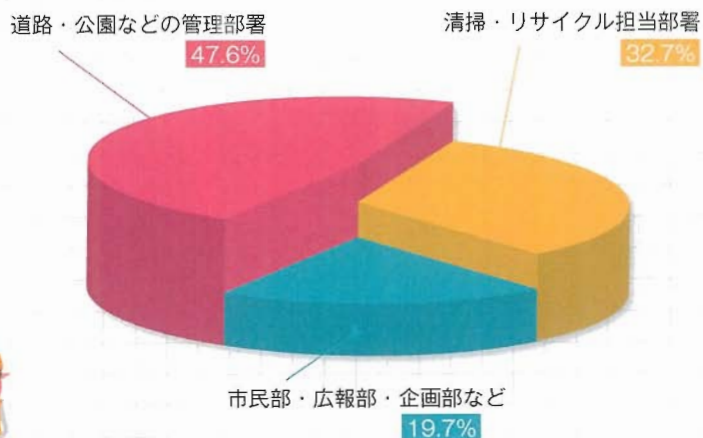
地域への愛着、地域の連帯感、ボランティア活動全体の底上げ、地域イメージの向上などの諸点についても高く評価されています。



4

アダプト・プログラムの担当窓口

自治体調査 2007



アダプト・プログラムの担当窓口

アダプト・プログラムの担当部署は地域によって、また導入目的によっても異なります。

アダプト・プログラムは道路・公園・河川・海岸など公共スペースを管理する部署が担当している事例が一番多く、全国の稼働プログラムの5割弱を占めます。

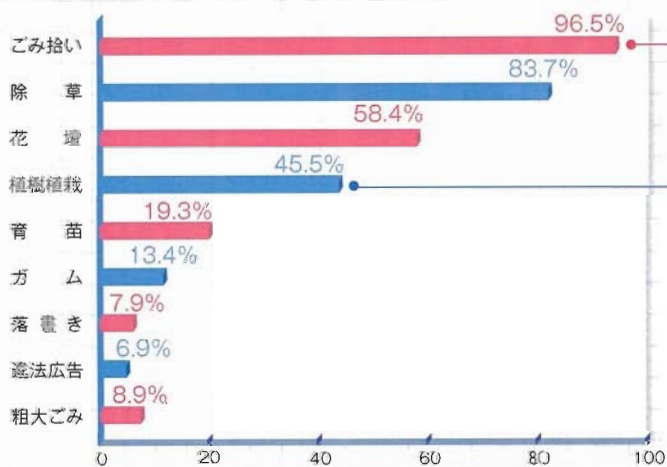
ついで多いのは、清掃事業の部署、およびリサイクルの部署で全体の約3割。最近、市民部・広報部・企画部などが窓口となるケースも増えています。

その地域の実態と自治体の組織に応じていろいろな部署がアダプト・プログラムの担当窓口となってまちの美化とまちづくりが進められています。全国各地の担当窓口は <http://www.kankyobika.or.jp/adopt/index.html> をご参照ください。

5

アダプト・プログラム市民の活動内容（複数選択）

自治体調査 2007



アダプト・プログラム市民の活動内容

アダプト・プログラムの基本的な活動はごみ拾いと雑草の除草です。

これを基本としつつ、植樹・植栽、ガム剥がし、落書き落とし、違法広告物の撤去など、きれいで快適なまちづくりに必要な活動がケースバイケースで盛り込まれています。

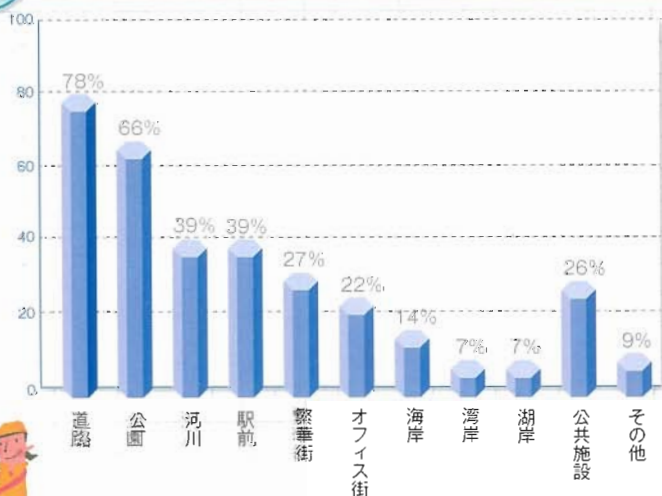
ほぼ全てのアダプト・プログラムでごみ拾いが行われている。

植木・植栽活動を取り入れているケースは50%弱である。

6

アダプト・プログラムが導入されている場所（複数選択）

自治体調査 2007



アダプト・プログラムが導入されている場所

アダプト・プログラムは、道路に限って導入されているケース、公園に限っているケース、限定なしに全域を対象とするケースなど、いろいろです。

場所別に集計すると、左図の通り、道路を対象とするケースが約8割で一番多く、以下、公園、河川、駅前・・・と続きます。いまアダプト・プログラムはいたる場所導入されています。

市民と自治体が育む

「まち美化プログラム」



アメリカで生まれ



1985年生まれ●ハイウェイでの散乱ごみ問題が深刻化したアメリカで生まれた、新しいまち美化手法「アダプト・ア・ハイウェイ・プログラム」。1985年にテキサス州がはじめて導入。その後、急速に全米に普及しました。

養子のように…●アダプト(ADOPT)とは「〇〇を養子にする」という意味。市民が公共スペースを「アダプト」し、これをわが子のように愛情をもって面倒を見る=清掃・美化することから命名されました。市民と自治体がお互いの役割分担について協議、そして合意を交わす——この合意にもとづいて継続的に美化活動を進めるプログラムです。



そして日本へ



パートナーシップ●欧米諸国に比べて、日本は公共スペースの清掃・美化のシステムづくりが立ち遅れていると言われていいます。公共スペースの清掃・美化——これは地域に暮らす「市民」と「自治体」が一致協力し合って取り組むべきテーマではないでしょうか。21世紀、「美しいまちづくり」のキーワードは「市民と自治体のパートナーシップ」。両者の協働で進める「まち美化活動」は、「環境美化」にとどまらず、地域への誇りと愛着を育みます。

そして日本へ●日本ではじめて「アダプト・プログラム」が導入されたのは1998年。以降、急速に普及が進み、2007年9月には300を超える自治体で70万人以上の市民がこのプログラムに参加しています。美しいまちづくりへの挑戦——各地で地域特性に応じた、独自の「アダプト・プログラム」が導入され、成果をあげています。



社団法人 食品容器環境美化協会

〒108-0023 東京都港区芝浦2-15-16 田町K・ビル6階

TEL.03-5439-5121 FAX.03-5476-2883 URL <http://www.kankyobika.or.jp> Eメール bika@oak.ocn.ne.jp